

## 1 開会の挨拶

【事務局】皆様、お待たせいたしました。定刻13時になりましたので、これから第1回推進会議を開催させていただきます。

本日、司会を務めさせていただきます、本事業の受託者でございますデロイトトーマツコンサルティングの松山でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日、オンライン会議での実施となっておりますので、先に3点ほど注意事項をお伝えさせていただきます。

1点目でございますが、ハウリング防止のため、御発言される時以外はマイクをミュートにさせていただきますようお願いいたします。

2点目でございます。発言時には所属先とお名前をおっしゃっていただきまして、ほかの方が話を終えてから御発言いただきますようお願いいたします。また、御発言いただく際には可能な限りビデオをオンにして顔をお見せいただければ幸いです。

3点目でございますが、万が一画面共有が途切れてしまった場合やフリーズしてしまった場合に備えまして、ホームページ上でも資料を公開しておりますので、そちらも閲覧できるように御用意いただけますと幸いです。もし音声等のトラブルが生じている場合は、Zoom上のチャットであったり、または事前に御連絡しております弊社事務局の窓口へ御連絡をいただければ幸いです。よろしくお願いいたします。

次第に入る前に、今年度よりこの会議体を、より参加者の皆様とのインタラクティブな会議運営にしていきたいと事務局では考えておりまして、新たな御意見集約ツールとして「Mentimeter」なるものを利用してみようと考えております。こちらは完全匿名でのアンケートツールとなっておりますので、この後表示させていただきますQRコードを用いることでログインの必要なく御利用いただけるようなツールでございます。プログラムの途中で少し皆様にアンケート的に投げかけをさせていただくような形で使いたいと思っておりますので、お手持ちのスマートフォン等でアクセスをして御回答に備えていただければと思っております。

それでは、早速「Mentimeter」を御使用いただけるかどうか確認したくて、画面に表示されておりますこのQRコードを読み取っていただき、アクセスをお願いしたいと思っております。QRコードを読み取れない方はスライドに記載のリンクとコードを直接ブラウザに入力することでもアクセスが可能です。

アクセスいただいた方々には「回答できましたか？」という画面が表示されると思いますので、ぜひ回答してみてください。

回答はリアルタイムで集計されておりますので、そちらの集計の画面に少し切替えをさ

させていただきます。

皆様、回答をありがとうございます。

今はテストですので、後ほど実際にこちらを使ってアンケートをしていきたいと思っております。

また、いつもどおりですが、Zoomチャットも活用いただければと思いますので、もしそういういった自由なコメントで御質問であったり御意見がある場合には、Zoomのチャットでも委員の方々だけではなくて参加者の皆様も気軽にコメントいただければと思いますので、よろしくお願いたします。

この「Mentimeter」に関しては、同じブラウザ上にて質問が繰り返せるような形になっていますので、ブラウザを閉じずにそのままにしておいていただければと思っております。

前段が長くなりましたが、早速、本日の進行に進ませさせていただきます。

本日、現在投映しておりますこちらの次第を基に進めさせていただきます。次第は10ございまして、かなり多いのですが、開会の挨拶及び委員・事務局の御紹介の後、初めて御参加される方もいらっしゃいますので、昨年度の取組を簡単に振り返らせていただきます。

協議会全体やその他令和3年度事業について御説明さしあげた後は、南雲委員から他協議会での取組事例みたいなところをアドバイスとして発表いただく予定でございます。各種討議やワーキング活動の状況報告等も予定しておりまして、非常に内容の濃い120分間と長丁場になりますが、皆様、どうぞ最後までお楽しみいただきたく存じますので、よろしくお願いたします。

それでは、早速最初の次第、東京都の宮坂副知事より御挨拶をいただきたいと思っておりますので、宮坂副知事、どうぞよろしくお願いたします。

**【宮坂副知事】** 東京都副知事の宮坂です。

今日は参加いただきまして、本当にありがとうございます。

東京都の最近のデジタルの動きを、せっかくの機会なのでお話をしたいと思っています。

4月にデジタルサービス局という新しい局ができました。局というのは国で言うと何とか省に当たるものになるのですけれども、これまでは、責任を持ってデジタルを推進する部署はどこだというやや曖昧なところもありましたので、4月から条例局という形でデジタルサービス局という局を新たにつくりました。

役割としては3つございます。1つ目は各局、そして今日もたくさん参加いただいているのですけれども、区市町村の皆様のデジタルの取組のニーズがあればどんどんサポートしていこうというお仕事の一つ。最近だと、区市町村の絡みで言うと区市町村CIOフォーラムを初めて先月開催しまして、全ての区市町村のICTの担当の方がなかなか集まる機会がこれまではなかったのですけれども、定期的に集まって意見交換をしたり、情報連携をしていこうという集まりを始めました。

2つ目がデジタルに関する全庁統括でして、こういったデータをどのように都として扱

っていくのかを、建設は建設だけ、教育は教育だけというようにばらばらに今まではシステムをつくってデータを集めていたのですけれども、システムは引き続きばらばらにつくるかもしれませんが、データだけは重ね合わせたり足したり引いたりできるようにしようと考えていますので、こういった全庁統括に関わることはしっかりやっけていこうと。

3つ目が、デジタル人材が今まで都庁のいろいろな局に散らばっていたものを、1か所のデジタルサービス局に集めている。そういった人材の結集と、それから、デジタルサービス局の人間だけでなく、一番現地、現場で仕事をしている一般の職員の人々がデジタルのことをちょっとずつ毎年覚えていって、簡単なアプリケーションを自分でつくれるようになるとか、そういった形で各局の現場で頑張っている人のデジタルの教育といったものもやっけていこうと。ここへ来て3つのことをやろうとしています。

特に局をつくったのですけれども、やることとしては局の役割は3つなのですが、事業としては大きく3つの柱で考えています。1つ目は「TOKYO Data Highway」と知事が名づけてくださっているのですけれども、行政として公共空間でちゃんとインターネットがつながる状況をつくっていこうと考えています。例えばコロナで一気に学校、インターネットがつながって教室で都立の学校は全部勉強できるようにしないとイケないとなりましたけれども、これなどもかなり大幅に前倒しして、9月ぐらいにはつながるのではないかと考えています。これまではネットワークがつながる・つながらないというのは割と現場任せになっていたのですけれども、税金でつくられた公共空間に関しては、インターネット、Wi-Fiと、今後は5Gみたいなものも出てくると思いますけれども、何らかの形でちゃんと都民の方に安全なインターネットが届く環境をつくらうということは今はやっけていこうと。

2つ目が、街のデジタルトランスフォーメーションと我々は呼んでいるのですけれども、都庁の仕事は例えば交通局で鉄道やバスを運行してみたり、水道の運営、下水道の運営、教育、医療、非常に多岐にわたっています。そういったものが今まであまりデジタルを使いこなせていなかったところがありましたので、今までの事業、別に水道サービスそのものが全然変わるわけではないのですけれども、水道サービスのメーターをスマートメーターなどにしていって、デジタル技術を使うことによって今までの水道サービスがもっとクオリティーがよくなる。今までの交通サービスにもうちょっとデジタルテクノロジー、例えば今車両にセンサーを取り付けて混雑データをリアルタイムで見られるようにする動きが始まるのですけれども、こういった今まで一生懸命つくってきた行政サービスの上にデジタルの分をアドオンすることによって、のった分だけ便利になるみたいな、そんな取組を各局で共通してやっけていこうということで、全局がそれぞれ1個か2個は今年デジタルの挑戦をやろうということになっています。

3つ目が、今日、まさにこういったZoomなどもそうなのですけれども、我々の働いている職員そのものがデジタルにもうちょっと慣れていこうと。働く空間を、今は西新宿でこうやって働いているのですけれども、デジタル空間で100%働けるようにしよう。これは

「バーチャル都庁」と呼んでいるのですが、別にここに来なくても仕事ができるようにしようと。都民の方もここに来なくても全部完結できるようにしようという、バーチャル都庁という3つ目の柱としてそんなことをやっています。

特に鍵になるのは、はんこをなくしたり、紙をやめたり、FAXをやめたり、現金をキャッシュレスにするとか、そういった情報のやり取りを今までパソコンでつくった書類をわざわざプリントアウトして、それをFAXで送って受け取った人がわざわざパソコンに打ち込んでみたいなのをやっていたのですけれども、デジタルでつくった情報はデジタルでちゃんと受渡しをしようというように、デジタル・アナログ変換をせずにデジタル・デジタルでやるというのを今は一生懸命取り組んでいて、かなり成果が上がり始めています。FAXなどだと、去年の今頃はまさにFAXの件で非常に都民の方から心配されたり怒られたりしたのですけれども、去年と比べて8割程度減るぐらいまでになってきています。

こういった形で、当然デジタル化することによってまたFAXの件数などもデータが出るようになってきたのですけれども、デジタル化することによっていろいろなデータが日々生まれてくるので、こういったものをどうやって公開していこうかというのが今後の一つの課題になっているのではないかと思っています次第です。

そんな中で、行政手続も大体3万5,000手続あるうちの2万8,000ぐらいはフルデジタル化しようとは今は取組を始めています。残りの7,000は国のルールが変わらないとできないことなのでも、都でできることは全部やろうということで今進めています。そうすると、日々、どの手続が何件申請されたのか、申請から実際に稼働するまで何日期間があったのかが全部数字で可視化できるようになると思いますので、こういったものを原則公開請求があったら見せるのではなくて、オープンデータの形で、みんなが都政の稼働状態を全部オープンデータで見られるようにどんどんしていこうなどという取組もこれからやろうと思っています。それがまさに今日議論いただく東京データプラットフォームの議論につながるのではないかと思っています。

これまでは局ごとでばらばらにデータを出すケースが多かったのですけれども、一旦、東京データプラットフォームで出せないのかみたいなことをしっかり議論して行って、ここに来ればデータが全部集まるような、少なくとも都庁が出すデータについては全部分かっている、そのうちの一部はオープンデータで誰もが使えるライセンスになっている、今はそんなイメージで考えています。

正直、現場のメンバーからこのサービスの名前を「東京データプラットフォーム」にしたいと聞いたときは、随分大きく出たなと思ったのです。これであまりデータがないと、これが東京と言われてしまうので、結構これはリスクのある名前だと僕は思ったのですけれども、それぐらいのことはやりたいと聞いて、僕は非常にいいことだと思いましたので、今の段階だとこれが東京と名づくほどの数か、量か、精度かと言われてしまうと思うのですけれども、いつか東京データプラットフォームだねと名実ともに言われるようなものに育てたいという志も含めた名前ですので、皆さんも今日の議論なども参考にしながら、名

前負けしないようなものにぜひしていきたいと思います。

今日はぜひともよろしく願います。

**【事務局】** 副知事、ありがとうございました。

新生デジタルサービス局は、最重要プロジェクトとして声を大にしてこの東京データプラットフォームを推進していきたいと思っておりますので、よろしく願います。

## 2 委員の自己紹介・事務局紹介

**【事務局】** それでは、今年度の協議会委員の皆様の御紹介に移らせていただければと思います。

今年度の委員に就任されました5名の皆様から、恐縮ですが、1分程度で一言ずつ御挨拶をいただきたいと思います。

まずは東京大学大学院情報学環教授の越塚登委員、よろしく願います。

**【越塚委員】** 御紹介ありがとうございます。東大の越塚でございます。

昨年度から引き続いてこの協議会にも参加いたします。どうもありがとうございます。

先ほど副知事がおっしゃっていましたが、東京にふさわしいほどの、ちゃんとしたデータプラットフォームという、まだ大変なところはあるかと思います。ただ、今日も参加のメンバーを見ますと、結構ほかの自治体の方々がかなりいらっしゃいます。この取組が日本の地方自治体、地方公共団体全体を推進してリードできるような、いい取組になっていると思っておりますので、私が持っている知見はお話いたしますので、どうぞよろしく願います。

**【事務局】** 越塚委員、ありがとうございました。

続きまして、株式会社iSGSインベストメントワークス取締役／代表パートナーの佐藤真希子委員、よろしく願います。

**【佐藤委員】** 皆様、よろしく願います。本年度よりこちらの委員に就任させていただきました、佐藤と申します。

私はもともとインターネットベンチャーでしたサイバーエージェントという会社でベンチャーキャピタルという起業家に投資をする仕事をして、今、このiSGSを立ち上げて、6期目に入る独立系のベンチャーキャピタルのパートナーをさせていただいております。

私としてできることは、データプラットフォームをつくるに当たって民間の力を巻き込んでいくことが必要不可欠だと思っております。そう考えると、私にできることは民間に発信をしてそういったところに参加をしてもらって、いかにスピードを速くするところに貢献できるかと自負しておりますので、その部分で皆様に貢献できたらと思っております。

ます。

私自身も都民ですので、非常にこういった機会をいただけるのを楽しみにしております。ありがとうございます。よろしくお願いいたします。

**【事務局】** 佐藤委員、ありがとうございます。

続きまして、武蔵大学社会学部メディア社会学科教授の庄司昌彦委員、よろしくお願いいたします。

**【庄司委員】** 武蔵大学の庄司です。

私はこの準備会から引き続きで参加させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

私はもともと本当にやりたいことは、地域社会の運営、地域の自治にデジタル技術がどううまく使えるかということの研究なのですけれども、そんな関心を持ちながら、地域のSNS、オープンデータ、最近だと国が進めている自治体のシステムの標準化、共通化、自治体DX、そういったことのお手伝いをさせていただいています。オープンデータの関連では結構東京都さんとは以前からいろいろお話をさせていただいておりますけれども、こうやって目玉ですと副知事が言うところまで来たのは、私たちはすごく大きく進んだなと思います。ちなみに私の背景も東京都のオープンデータの画像を使わせていただいています。

**【事務局】** ありがとうございます。

**【庄司委員】** これも一つですが、こういった目に見える成果が出ていくように、微力ながらお手伝いしていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

**【事務局】** 庄司委員、ありがとうございます。

続きまして、一般社団法人スマートシティ・インスティテュート理事の南雲岳彦委員、よろしくお願いいたします。

**【南雲委員】** 皆さん、こんにちは。スマートシティ・インスティテュートの南雲でございます。

私どもは産官学民でスマートシティをみんなで盛り上げるエコシステムづくりをやっておりまして、実はこの参加者の皆さんのお名前などを見ていましたら、既に協働しているっしやる名前がいっぱいあるということございまして、東京都のデータというところについても面でみんなで一緒にやれるような、そんな環境づくりのお手伝いができたらと思っております。

私個人としては、いろいろと海外とのネットワークも皆さんと共有できたらいいなと思っ  
ていまして、ヨーロッパ、もちろんアメリカもそうですし、アジアというところとつな  
がりながら、東京がぐっと目立つという形で何かお手伝いできないかと思っています。

ウェルビーイングや地球環境との共生、これも私にとってもとても大切なテーマになっ  
ていまして、そういったエッセンスなども皆さんと共有しながらこの会が盛り上がって  
いくといいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

**【事務局】** 南雲委員、ありがとうございます。

最後になります。三浦法律事務所弁護士の日置巴美委員、よろしくお願いいたします。

**【日置委員】** 弁護士の日置でございます。

昨年度の準備会から引き続き委員を拝命しております。よろしくお願いいたします。

私は平成27年の個人情報保護法改正に携わった経験から、データとビジネス、データと  
知財、あるいはデータと研究という形で、業分野や官民間問わずデータに関していろいろ  
プラクティスに携わらせていただいております。

去年に引き続きということで、今年はさらにどういったことにデータ活用をしていくの  
か、東京都のデータを利用できるように環境整備をするのか、あるいはどこにフォーカス  
していくのか、そういったところの議論が深化していくものと期待しております。

微力ながら尽くしてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

**【事務局】** 日置委員、ありがとうございます。

以上のそうそうたる委員の皆様で今年度の本協議会を進めていきたいと思っておりますので、  
よろしくお願いいたします。

続きまして、東京都デジタルサービス局の高橋部長から、東京データプラットフォーム  
の目的、名称について御説明をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

**【高橋部長】** 東京都デジタルサービス局でデータ利活用担当部長をしております、高橋葉  
夏でございます。

先ほど、宮坂副知事から御説明しましたとおり、高い志を持ちまして、東京データプラ  
ットフォームはデータ提供者と利用者をつなぐ基盤となりまして、データ流通の加速を通  
じて都民のQOL向上を目指していきたいと思っております。

これまで名称を「官民連携データプラットフォーム」としておりましたが、今年度から  
「東京データプラットフォーム」、略称を「TDPF」として、こちらのアイキャッチの下で  
推進してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

### 3 昨年度までの振り返り

【事務局】ありがとうございます。

次に、昨年度までの振り返りというところから入りたいと思います。  
続きまして、高橋部長、よろしくお願ひいたします。

【高橋部長】引き続き、高橋でございます。

まず、東京データプラットフォーム事業の設立の経緯について御説明させていただきます。11ページを御覧ください。東京都では、平成31年4月に東京版「Society 5.0」の実現を目指しまして、「Society 5.0」社会実装モデルのあり方検討会を設置、データプラットフォーム構築の方策を決定いたしました。

その翌年、令和2年2月には「スマート東京実施戦略」を公表しまして、データプラットフォーム推進を宣言しております。

12ページを御覧ください。あり方検討会での御意見や検討内容を踏まえまして、昨年度はデータプラットフォームの構築に向けて、官民連携データプラットフォームの準備会、そして、データ利活用実証プロジェクト、ポリシー策定等の取組を実施してまいりました。この後、各事業について説明させていただきます。

13ページを御覧ください。こちらは昨年度の取組と今年度以降のロードマップでございます。昨年度よりデータプラットフォーム事業を推進するプロジェクトとしまして、利用者の拡大やユースケース創出、ポリシー策定等の取組を進めてまいりました。今年度は令和4年度以降のTDPFの運営組織設立に向けまして、システム基盤構築やデータ整備を含めて取組を強化してまいります。

まず昨年度、TDPFの事業範囲と準備会で行った検討内容について御説明させていただきます。14ページを御覧ください。TDPFの事業概要につきまして、まず、データ流通推進事業、そちらから取り組みまして、段階的に事業の拡大を検討していくこととしました。データ流通推進事業は、データライブラリー、データ流通プラットフォーム、ネットワーク、この3つで構成されることを想定しております。

15ページを御覧ください。データ流通を促すためのトラスト、信頼の基本的な考え方と信頼性向上施策の取組を整理しております。信頼性につきましては、①にありますとおり、データに対するトラスト、これにつきましては、データレート等のフィードバック機能を検討するなど、信頼性を高めるために、TDPFとしても一定程度関与することを想定しております。また、②にありますとおり、参加者に対するトラスト、こちらにつきましては、相互に信頼に足るデータの提供者・利用者が参加することを目指した取組や仕組みを想定しております。その一方、参加しやすさを重視しまして必要最小限の取組としていくことを想定しております。

それ以外にも、データの品質やデータ提供の継続性、2次利用データの取扱い等についても検討を進めているところでございます。



16ページを御覧ください。昨年度はデータプラットフォームの会員制度と収支の考え方についてまとめました。会員制度については、会員登録を原則とする設計としまして、利用内容によっては無料会員や有料会員等を設定していく予定でございます。会費や個別サービス料を収入としまして、持続可能な運営に必要な最低限な収支を確保していくことを目指します。

17ページを御覧ください。TDPFの利用者の拡大、ユースケース創出に向けた取組として、昨年度のワーキンググループについて御説明させていただきます。

18ページです。混雑ワーキングにつきまして、これは混雑領域におけるデータの利活用、このコロナ禍におきまして、その具体的な取組を通じまして、データ流通における課題や取組の検討・実施や運用ルールの検討などを行ってまいりました。

19ページを御覧ください。混雑ワーキンググループに関する報告とまとめとしまして、まず、ファーストステップにつきましては、公益性に賛同する企業さんを公募いたしまして、混雑データの保有企業と情報配信企業によるサービスリリースを行いまして、目的を達成することができました。

20ページを御覧ください。同じくTDPFの利用者の拡大やユースケース創出に向けた取組として、データ利活用実証プロジェクトを実施いたしました。

21ページを御覧ください。こちらにありますとおり、データ利活用プロジェクトでは、社会的な課題解決等に資するテーマの下、こちらの6プロジェクトを実施いたしました。

22ページにございますとおり、データ利活用プロジェクトの総括といたしまして、今後、我々側として取り組むべきことの気づきを、今後都の関わるべきポイントとしてまとめさせていただきました。①から⑤に当たる5点につきまして、今年度事業に反映していきたいと考えております。

23ページを御覧ください。「ポリシー案1.0」の策定についてです。24ページにございますとおり、このデータプラットフォームのポリシー策定委員会では、東京大学の宍戸教授を委員長に、日置委員にも御参画いただきまして、運営組織のデータガバナンスポリシー案を検討いたしました。

25ページにございますとおり、昨年度の準備会での議論や実証プロジェクト等の取組に基づきまして「ポリシー案1.0」としてまとめさせていただきました。右側にありますような構成です。

26ページを御覧ください。次に、関連事業としまして、3Dビジュアライゼーションについて御説明いたします。

27ページを御覧ください。3Dビジュアライゼーション実証事業では、都市のデジタルツインの実現に向けまして、デジタルツインの基礎となるデモ用の3D都市モデルを作成し、これらを活用したシミュレーションを実施いたしました。

また、デジタルツイン実現に向けたコンセプト動画の公開や、作成した西新宿エリアのデモ用の3D都市モデル、これを都民の皆様に向けて発信し、デジタルツインの本格整備に

向けた機運醸成を図ったところでございます。

【事務局】ありがとうございます。

昨年度、相当盛りだくさんの検討を多方面でされている中、僅か7分で説明してくださいという事務局からの指示で、皆さんもなかなか完全に情報をキャッチアップするのは難しかったかと思うのですが、チャット上でも事務局から関連する昨年の報告等もリンクを貼らせていただいていますので、ぜひお時間のあるときに昨年までの検討内容に関しても御確認をいただければ幸いです。よろしくお願いいたします。

続きまして、本年度の協議会の目的、取組内容に進ませてもらいたいと思います。

その説明をする前に、早速冒頭御案内さしあげました「Mentimeter」を少し使って、皆さんに御質問をさせていただければと思っております。

皆さんが推進会議に本日参加していただいた理由をぜひお聞かせいただきたいと思っております。既に冒頭、テストで回答いただいた方は、その画面がアップデートされて答えられるようになっておると思っていますので、そちらから。もし閉じられてしまった方は、改めてQRコードないしは今チャットで記載しておりますURLから入っていただき御回答いただければ幸いです。2つまで複数選択可能ですので、御回答いただければと思っております。

皆様に御回答いただいているこの時間を使いまして、昨年度から混雑ワーキンググループに御参加いただいております、エヌ・ティ・ティレゾナント様から少し御参考ということで、ワーキングに参加した感想や今後のTDPFの取組について期待していることなどを御発言いただきたいと思いますと思っております。

エヌ・ティ・ティレゾナントの比屋定様、御発言、お願いいたします。

【比屋定様】御紹介にあずかりました、私はエヌ・ティ・ティレゾナントの比屋定と申します。よろしくお願いいたします。

昨年度、施設系混雑ワーキンググループの取組におきまして、ロコガイド様と連携いたしまして、弊社が運用している「goo地図」に小売店、ドラッグストアなどの混雑情報を1月8日にリリースさせていただきました。リリース後、小池都知事の定例会見ですとか、テレビ、ウェブ等のメディアにも多数取り上げていただきまして、弊社ですとか「goo地図」のPRにも多くつながりました。本当にありがとうございました。

また、混雑ワーキンググループに参加することで、日々の業務ではあまり接点がない企業様と数多く関わることができました。各社の取組や課題などを聞くことによって初めての情報も数多くございましたし、そのような点が混雑ワーキンググループに参加してよかった点だと思っております。

今年度につきましても、東京都の取組に対しまして積極的に参加させていただきまして、サービス側からではあるのですが、貢献できていければと思っております。

以上となります。ありがとうございました。

【事務局】比屋定様、ありがとうございます。

今年度の混雑ワーキンググループでの活動も含め、引き続きよろしく願いいたします。

【比屋定様】よろしく申し上げます。

【事務局】画面では皆様、御回答をありがとうございます。多くの皆様から回答をいただきました。情報収集、学びを得るという目的が一番多いようでした、我々事務局といたしましては、そういった機会にもさせていただきたいという思いがある一方、協業の仲間づくりとか、そういったコミュニティづくりみたいなのところにも今年度は力を入れていきたいと思っておりますので、今年度が終わったタイミングでもう一度聞いたときには、何がよかったかというところで、協業、仲間づくりができたとか、そういう御回答をいただけるように頑張っていきたいと思っております。よろしく願いいたします。

皆さん、御回答をありがとうございます。

それでは、アジェンダに戻らせていただきます。協議会の目的、取組内容について、引き続きまして高橋部長、よろしく願いいたします。

#### 4 協議会の目的・取組内容

【高橋部長】事務局、高橋葉夏でございます。

引き続きまして、本協議会について御説明させていただきます。

31ページ、御覧のとおり、本協議会は昨年度の準備会の検討結果を踏まえまして、TDPFの事業の詳細について検討を進めるとともに、ワーキング活動やイベントを通じましてTDPFを将来的に御利用いただく方々とのコミュニティ形成を図りたいと思っております。

協議会の主な取組は、まずこの推進会議とその配下のワーキンググループ、イベントの3点という形になります。推進会議はTDPFとして注力する分野やサービス内容等について情報共有や討議を行いまして、それを踏まえて業務設計やポリシー、システム要件等の検討を事務局から報告させていただきます。

ワーキンググループにつきましては、先ほど、エヌ・ティ・ティレゾナント様からもありましたとおり、テーマごとにユースケースの創出に向けたいろいろな活動や議論を行いまして、各分野のデータ利活用の課題や対応策について、関係者で協議することを予定しております。

イベントにつきましては、まさに仲間づくり、それを実現するためにアイデアソンやオンラインセミナー等を行いまして、ワーキング活動の推進や協議会メンバーのネットワーク拡大に取り組んでいきます。

続いて、32ページを御覧ください。昨年度の準備会と本協議会との変更点を整理してお

ります。本協議会では、TDPF事業のディスカッションに加えまして、将来的にTDPFのデータ提供者と利用者とのネットワーク拡大を目指してまいります。本推進会議では、昨年度準備会をリードしていただきました越塚委員、庄司委員、日置委員に加えまして、スマートシティや事業のスタートアップ、立ち上げ等に御知見を有する南雲委員や佐藤委員に新たに御参画いただき、議論を深めてまいります。

次のページを御覧ください。推進会議では、TDPFの事業計画に関する討議やワーキンググループ等を通じたユースケース案や実証事業の結果について共有させていただく予定です。推進会議は全4回を予定しておりまして、そちらの検討を踏まえて事業計画等、委員の皆様や参加者の皆様から御意見をいただきたいと思いますと考えております。

34ページを御覧ください。今年度は混雑ワーキンググループに加えまして、新たなワーキンググループを設立し、活動を拡大していきたいと考えております。ワーキンググループではテーマごとに参加者を募集しまして、データの利活用に関するニーズ収集や課題、対応策の検討等を通じてユースケースの創出を目指してまいります。こちらに書かれているのは、現在「スマート東京」のテーマ別に基きまして、新規のワーキンググループの対象分野について検討を進めております。検討状況につきましては、後ほどフォーカス分野の選定のパートで御説明させていただきます。

35ページを御覧ください。TDPFのコミュニティを盛り上げる取組として、アイデアソンやオンラインセミナー等各種イベントの開催や、オンラインコミュニティを開設する予定でございます。アイデアソンでは、テーマごとに関係企業等にお集まりいただきまして、具体的なサービスアイデアの創出を行い、オンラインセミナーでは、推進会議やワーキンググループ、アイデアソンの成果等を発信していく予定です。また、Slackでグループを立ち上げまして、会議やイベントがないときでも常時リアルタイムにコミュニケーションが可能な環境を構築していきます。

36ページを御覧ください。アイデアソンについてです。新設する、新しくつくるワーキンググループでのテーマ等に基づきまして、関係する企業や団体の方々にお集まりいただきまして、データ利活用を通じたサービスアイデアについてディスカッションを実施しまして、有用なアイデアにつきましてはユースケース候補としてワーキンググループで取り上げて検討していきたいと思っています。参加者の皆様にとっても有益なコネクションや事業アイデアの創出につながるよう、具体的に検討していきたいと思っています。

37ページを御覧ください。TDPFの事業の認知度を高め、そして、利用者を拡大するため、オンラインセミナーを開催する予定です。具体的な内容につきましては、皆様の御意見を聞きながら企画していきたいと考えております。

38ページを御覧ください。Slackのグループにつきましては、この会議が終了後に事務局からお送りする利用ルールやガイドラインを御確認いただきまして、登録者情報を御記入することでアカウント作成ができますので、ぜひとも御参画いただきたいと思います。よろしく願いいたします。

【事務局】ありがとうございます。

イベントの企画等に関しましては、アンケートでも御意見をいただきまして、皆様のためになる企画にしていきたいと思いますので、御協力のほどよろしくお願いいたします。

それでは、今年度事業の御紹介というところで、高橋部長、引き続き、よろしくお願いいたします。

## 5 令和3年度事業紹介

【高橋部長】引き続きまして、令和3年度の事業の紹介について、私から説明させていただきます。

40ページを御覧ください。今年度は組織・サービス開始への準備として、事業、ユースケースの具体化、システム要件定義などを進めてまいります。事業の内容につきまして、順に御説明いたします。

41ページを御覧ください。昨年度のデータ利活用実証事業の結果も踏まえまして、今年度はケーススタディ事業としてTDPF利用候補者がデータ利活用の成功体験を得ることで利用意欲の醸成やお客様として参加いただくこと、また、利用促進活動に利用する利活用事例やケーススタディの創出、蓄積を行う、そのような事業を実施していきます。ケーススタディ事業につきましては、実施を3件公募いたしまして、それを利活用事例として積極的に広報していく予定です。

42ページでございますとおり、このケーススタディ事業につきましては、既に公募は締め切っておりまして、ただいま選定を行っているところでございます。

43ページを御覧ください。昨年度策定いたしましたポリシー案につきましては、今年度の協議会や各事業における事業実施の詳細や組織体制の検討状況を踏まえまして、データ提供者・利用者に求める事項の詳細化や、また、それに応じて改訂を行うことを想定しております。

続いて、44ページを御覧ください。データ流通推進に関しまして、データ連携基盤に関する要件定義を行うことを想定しております。要件定義の範囲としましては、ここにありまして、データライブラリやデータ流通プラットフォーム、ダッシュボードなどを検討しております。

45ページを御覧ください。データ整備に関しましては、昨年度データ利活用実証事業で明らかとなりました、自治体におけるデータ保有の課題や準備会で議論されましたデータの質の向上を目的に、行政データの整備にかかる事業を実施していきます。具体的には、TDPFにアクセスすれば都内区市町村のデータがそろっており、機械判読可能な形式になっているデータを取得できるようになる、これを目指していきまして、デジタル化されていても機械判読が困難なデータや地図情報がありながら座標がないなど、そういうデータを整備対象候補としまして、現在、有識者や民間事業者へのニーズ調査、そして、区市町村の皆さんへのアンケート調査を行っておりますので、御協力のほどよろしくお願いいたします。

ます。

続いて、46ページを御覧ください。「デジタルツイン実現プロジェクト」と題しまして、昨年度、3Dビジュアライゼーション実証プロジェクトの結果を踏まえまして、デジタルツインの社会実装の加速、庁内各局の業務とどのようにデジタルツインを活用・実装していくかの検討を目的とした取組を行っております。具体的には、デジタルツインの社会実装に向けた3つの実証や専用ウェブサイトの公開、ロードマップの策定、社会実装に向けた検討会の開催を予定しております。実はその第1回目のデジタルツインの検討会を昨日開催させていただきました。引き続き検討を進めまして、この協議会でも御報告させていただきたいと思っております。

**【事務局】** 高橋部長、ありがとうございました。

全く水も飲まれずに、すばらしい。コロナでなかったらお水を差し上げようかと思ったのですが、それはやめておこうかと思えます。

## 6 南雲委員からの発表

**【事務局】** 早速、次のアジェンダに移らせていただきます。次は、本年度から委員に御就任いただきました南雲委員から、冒頭に御紹介いただきましたSCIの活動なども踏まえて、今年度のこの「TDPFにおけるコミュニティ形成へのヒント」と題していただきまして、コミュニティ活性化等に関するアドバイスの発表をいただければと思っております。

南雲委員、どうぞよろしく願いいたします。

**【南雲委員】** 御紹介をどうもありがとうございました。

今、画像を共有させていただきますので、少々お待ちください。来ましたでしょうか。

では、始めさせていただきます。ありがとうございます。

いろいろなコミュニティづくりは皆さん既にいろいろやっておられまして、庄司先生や越塚先生、その他皆さん本当にいろいろやっておられるので、我々としてほかの団体さんのことを話すよりも、まず自分のことをこんなことをやっていますということを御紹介して参考にしていただくのが一番いいかと思ひまして、スマートシティ・インスティテュート、立ち上げてまだ1年と半ちょっと過ぎたところですけども、どんなことをやっているのかについて御参考にしていただければと思ひます。

一昨年の10月に立ち上げまして、日経新聞さんと三菱UFJリサーチ&コンサルティングが発起人になってつくった集まりなのでですけども、一般社団法人ということで、産官学民、いろいろな人に入っていておりますが、会員が410ということで、いわゆるコーポレート会員という形で76、それ以外の非営利の方で330ということなんです。

情報提供、啓発系もありますけれども、人材育成であるとか、マッチングであるとか、それから、いろいろな学びがあって、そこから政策提言に近いところまで最近はやってお

ります。学生さんの育成というか、次世代へのいろいろな啓蒙活動などもやっています。

一つの特徴は、いろいろな分野の方にアドバイザーになっていただいております。老若男女というほど若い人というか、子供の方はいらっしゃいませんけれども、もちろんここに越塚先生がいらっしゃったり、若い方で言うと石山アンジュさんなどがいらっしゃったりします。もちろんテクノロジー系の方もいけばそうではないSDGs系の方、文化のほうの方、リスクマネジメントの方もいけば、「こころ」などという心理学に近い方もいらっしゃいます。最近よくテレビで見られる慶應医学部の宮田先生なども加わっていただいたり、石川善樹さん、ウェルビーイングの方です。こういった皆さんと一緒にいろいろなことをつなげるということをやっています。

会員は、これが正会員と言われるお金を払ってくださっている方なのですが、見ていただくと、IT系もいけば、いわゆるディベロッパさん、それから、生損保さんも最近は入っていたりします。一つの特徴は、系列をまるっきり越えてしまっているということです。例えばコンサルティングで見ますと、野村総研さんもいらっしゃって、PwCさんもいらっしゃって、三菱総研が入っていて、三菱UFJリサーチ&コンサルティングが入っている。博報堂さんがいけば電通さんもいらっしゃるという形で、これは非競争領域というのですか。みんなでやっていくところですか。協力する領域という形で民間企業さんからは参画をしていただいている。

それ以外に、いわゆる非営利の皆さん、賛助会員という形ですけれども、内閣府の皆さんをはじめとするスマートシティに関連する省庁の皆さん、農林水産省や環境省も入っていらっしゃいます。それから、自治体の皆さん、東京都ももちろん入っていただいております。それから、大学が20、その他経団連や新経連みたいないわゆる産業団体の方もいらっしゃれば、Code for Japanなどといった民間のシビックテック、シビックセクターの方もいらっしゃいますし、海外のいろいろな大使館などの方もいらっしゃいます。日々増えていまして、毎週理事会をやって皆さんにメンバーに加わっていただいている状況になっています。

いろいろ提携先も増やしていまして、海外の関係、オランダやイギリス、ロンドン、韓国、FIWAREもそうですけれども、そういうところもあれば、国内ももちろんございます。

下の黄色いところは、立ち上げる前に三菱UFJリサーチ&コンサルティングのほうで仲よくなったところですが、エストニアやフィンランドなども海外としては入っています。

それから、いろいろなところで相互加盟という形で協力関係もつくっていまして、もちろんスマートシティ関係もあれば、JCoMaaSさんみたいなモビリティの方もあります。それから、データ社会推進協議会、これは越塚先生が会長をやっていたところですが、こういったところなど、皆さんと一緒にやっていく。アンテナを張り巡らせるというか、ネットワークを広げているということをやっております。

コロナの前は実際に海外に皆さんと一緒にいくということをやっていまして、今はでき

ていないのですけれども、ワクチンが調べばまた行けるかと思うのですが、実際に現地の中に入って普通では見られないところ、海外にパートナーを持っているので、例えばエストニアだったら国会の中に入れます。そういったところにも入りながら、実際にそういうところに座っていろいろなお話を聞いたり、当事者の方とお会いするようなことをやってきていました。

国内に海外の方に来ていただくような大きなイベントも過去ずっとやってきておりまして、バルセロナなどお呼びしたこともありますし、スーパーシティのことでやったこともありますし、ウェルビーイングシティみたいな地球環境に根差したこと、それから、アジア・スマートシティ会議というものが毎年横浜でありますけれども、これなども一緒にやらせていただいたりということをやってきております。

人数を見ていただきますと、リアルでやっていると少ないのですけれども、ハイブリッドからオンラインでやると1日でこれだけ数字が伸びるのです。これは裾野を広げるという意味では、逆にオンラインになってよかった部分もあるのかと思います。その後には必ず新聞広告で採録を出す形にしていまして、インフォームするということもやっています。

最近ではウェビナーも随分力を入れていまして、庄司先生にも実は御登壇いただいております、ユーチューブに映像が残っておりますので、皆さんよろしければ御覧になっていただければと思うのですけれども、約1年と1か月で200回やりまして、スマートシティ業界の「笑っていいとも！」とか「徹子の部屋」とか、最近言われることも増えてまいりましたが、ほぼ毎日やっています。

テーマもど真ん中のスマートシティもあれば、レジリエンス、コロナに対応するには海外のまちはどうしているのか、海外とリアルでつないでやったり、シビックテック、ガブテック、それから、自治体の皆さんに出ていただく。日野市さんなどにも出ていただきまして、ESRIとの協働でジオグラフィックインフォメーションシステム、こんなことをやっているとか、リビングラボの話などをしていただきました。東京都で言うと渋谷区さんにも出ていただきました。これは事業会社さん、それから、サーキュラーエコノミーやアーバンエコロジー、オープンデータの話、地球と市民のウェルビーイングの話、それから、市民参加ですね。スタートアップとオープンイノベーション。

それ以外にも、来週からですけれども、海外の都市とじかに英語でつなげていくシリーズを立ち上げます。グローバルパースペクティブということで、第1回目は皆さんお聞きになったことがあるかもしれませんが、Decidimという意思決定のプラットフォームのまさに当事者、バルセロナと直接やります。そのようなことも続けています。

それから、中央官庁の皆さんにもたくさん出ていただいております、スマートシティのお話、スーパーシティのお話、スタートアップのお話、電子政府のランキングの話とか、地域循環共生圏の話、いろいろやっていただいております。

ここに出ていただいた自治体や諸外国のお名前、それから、ここに海外で提携して一緒に出ていただいているような団体も出ているということです。



ウェビナーはこんな形でやっています、今週月曜日は安田クリスティーナさんだったのですけれども、今週からシアトルに転勤されるということでぎりぎりやっていたきましたが、若い方にも出ていただいている。

これが今後始める海外の英語の直のものです。そういうものも始める。

こういう感じでユーチューブに全て出ているので、忙しい方は後でも見られますという形で、今はチャンネルの登録数が1,920ぐらい、これがどんどん増えていっている状況になっています。

どのくらい見ていただいているかログも取っています、恐縮ですが、これは最初に私がやったのですけれども、スマートシティの基礎。基礎はなかなか伝わっていないのだというのは実感しました。データもそうなのではないかと思うのです。教科書がない世界はこういう感じで、あとは1,000回、2,000回を超えるものが随分出ていまして、直近で言うと1回のトップが内閣府の土屋さんがやられたスマートシティ・ガイドブックの紹介、473名がいきなり入られたという回もありました。

それから、登壇されたスタートアップの皆さんに関してはこういうカオスマップをつくって、自治体や企業の皆さんに我々から御紹介をしています。ウェビナーと御紹介のページをつくって、こういうことをやっています、皆さんどうですかということで情報の共有などもやっていたりもします。

最近オンラインサロンも始めていまして、ウェビナーだとどうしてもチャットでクエスチョンを拾ったとしても一方通行になりがちなので、20名ぐらいの方に集まっていたいて、自分のバリューチェーン上関係があるような企業の方や社会実装にしたいと思っている自治体の方、学者の方で集まっていたいて、顔見せで、お酒はなかなか入らないのですけれども、ディスカッションフリーにやることを始めていまして、かなりリアルなマッチングに近いことができるような環境になってきています。

御要請があればいろいろなところで講演というか、勉強会などにも出張って行って皆さんとお話しするような場も持っています、この1年間で70回ぐらいやったのかという形で、お題に応じていろいろな情報提供をさせていただいているという活動もやっています。これはワンオフです。

会員専用のウェブサイトを持っています、ここにコラム、リサーチ、分科会の活動、オープンスクエアという掲示板に当たるものを載せています。そのほかにメルマガが月に2本出る形になっていまして、加えて臨時メールという形で皆さんのイベント、実は今日のイベントも臨時メールでうちの会員には流したのですけれども、そのようなこともやったりしております。

コラムはこんな感じで、いろいろとアドバイザーの方に書いていただくことが多いのですけれども、ここについては北欧研究所の安岡美佳さんとか、レジリエンスの高いまちづくりということでGLOCOMの櫻井先生、東大の吉村先生にはもう少しデジタルツインによっているところだと思っておりますけれども、アーバンサイエンスにおける都市設計ということ

で、データと都市設計の接点のようなどころのお話をいただいたり、その他、いろいろとPwCの皆さんにも持っている知見を共有していただいたりとか、三菱総研の方にもやっていただきました。それから、内閣官房のオープンデータ伝道師をやっている三菱総研の村上さんにもいろいろと書き物をしていただいたりしています。

リサーチという意味でいうと、アンケート調査を定点観測という形でやっておりまして、会員の皆さんにスマートシティは何が問題なのと。どうしてもピッチをやるといいことしか言わないというのが日本人的な常なので、苦勞していることもオープンにしましょうということでアンケートを取っています。それと同時に、日経新聞さんには現地に行っていていただいて取材記事を書いていただく。この2つを使っていろいろなワークショップをやっいていこうというようなことをやっています。

アンケートで言いますと、結論だけばっとお見せしますけれども、いろいろあるうちの一番重要なものですが、何が大変なのという、アーキテクトがなかなか見つからないという話であるとか、ビジネスモデル、マネタイズです。ここのところがなかなか目途が立たない。それから、市民参加、合意形成というところが重たいです。こういうものがデータとして出てくるので、こういうものも皆さんと共有しながら、何を政策として提言すべきなのか、何か足りないのかをみんなで話し合ったりもしています。

これがそれと同時に走った日経新聞さんの取材なのですけれども、20都市を回っていただきまして、東京都にももちろん取材に行っていました。それから、越塚先生のインタビューなども入っていますけれども、こういった形で皆さんの目から見たいところ、悪いところを共有するようなことをこういう形でやってきたりもしています。

こういった形の中で、分科会もやっていまして、人づくりですね。アーキテクトも育てないといけないことが分かってきました、11月にゼロ回目、3月に1回目、今度6月24日、6月25日に2回目をやりますけれども、各自治体でスマートシティをやっておられる方にリアルとオンラインのハイブリッド形式で、アーキテクトチャやアーキテクトは何なのかということ。それから、変革するということはどういうことなのかを皆さんで共有する。2か月に1回持ち回りでいろいろな土地を回りながらこういったこともやっています。

スマートシティといったときに、テクノロジーを入れるというよりも人間中心主義的にウェルビーイングを高めなければいけないということで、インディケーターをつくっていただきまして、オープンデータを使ったものを無料開放で使っていております。ですから、これを使ってディスカッションをやったり、ワークショップをやったりと。中にはスーパーシティのテーマの中に取り入れていらっしゃるような自治体も出てきました。このような形の活動をやっていたりもしています。

電子掲示板です。オープンスクエア、実はこれは東京都がトップに来ていますが、こういう形で会員さんに出していたり、法律事務所、内閣府の活動なども載せてくださいというものは全部御要請のとおり載せています。こういう情報共有の場もオンライン上でつくったりもしています。

あとは新聞ですね。日経新聞さんと組んでいるので、いろいろな記事を出す形で広く進めていく。情報の民主化、スマートシティの民主化みたいなこともやっている。かつ「日経チャンネル」というオンラインで会議について全てオンデマンドで無料で開放しているということです。

最後のまとめですけれども、スマートシティというところに関して言うと、真ん中に人がいて、コミュニティがあって、インフラがあって、自然環境まで、バームクーヘンみたいな形になっているのですけれども、そこに都市計画の観点から関わっている方、アーバンデザインで関わっている方、コミュニティデザインで関わっている方、そして、テクノロジーと、こういう4つぐらいの世界があって、それぞれがオーバーラップしながら皆さんやっぺいらっぺいやるのです。これを緩くつなげていくというところでみんなのコミュニティづくりができるかという形で我々は活動をしています。

少し長くなりましたけれども、以上でございます。御清聴ありがとうございました。

## 7 意見交換①

【事務局】南雲委員、ありがとうございます。

御紹介もいただきましたけれども、本日の会議の案内に関しましても御協力いただきまして、本当にありがとうございます。相当クロスインダストリーで、クロスセクターで、また、さらにクロスボーダーでというところで、スマートシティという大きなスコープをつくっていく上での完全に業界内でのプラットフォームになられているなというところで、我々のTDPFに関しましてもぜひ連携させていただきまして、参考にさせていただきながら進めたいと思っております。

今回、南雲委員からお話しいただいたようなテーマも含め、委員の皆様との意見交換に進めさせていただければと思っております。参加者の皆様も委員の皆様の御発言等に対してZoomチャット上で御意見があればいただければと思います。

意見交換としましては、1つ目、まさにこのTDPF協議会の取組内容や方針についてというところで、今いただきましたコミュニティ形成、ネットワーク拡大に向けてこういうことをやったほうがいいのではないかというお話だったりとか、あとは取り上げてまいるテーマに関してであったりとか、その辺りを中心にここに記載させていただいているものに限らず御意見を賜ればと思っております。

まず1つ目の緑の字で書いておるところの議題に関しまして、意見交換をさせていただければと思っております。

よろしければ、最初の御発言というところで、昨年度も準備会委員を務めていただきました越塚委員に御意見をいただければと思っております。越塚委員に関しましては、DATE-EXなど国や関連団体のデータ利活用に関する動向に関して、まさにどの有識者会議に行っても越塚先生がいらっぺいやるという形で、相当動向にお詳しいと存じ上げますので、御意見をいただければと思っております。よろしくお願ひいたします。

【越塚委員】今、この2つを言えばいいですか。それとも1つ目だけでしょうか。

【事務局】まず1つ目をお願いできれば幸いです。よろしくお願いします。

【越塚委員】了解しました。この頭にあるコミュニティ形成やネットワーク拡大のところ  
でまず思うことが2つありまして、今、データの分野で基盤をつくる話がありますが、大  
きな課題は、なかなかデータ利活用が社会の中で進まない。また、利活用が進んでから基  
盤をやっていたのでは間に合わないという話もあって、同時並行でやっているところがあ  
りますが、どうも急には進まないという話があります。

それを深掘りしていくと、データを使うというのは何らかの社会課題の解決をしたいと  
きに、社会課題の解決やビジネスで改善したいことを、データまで達しないところで終わ  
っているケースが多いような気がします。結局いろいろな課題を分析してデータを活用  
するということは、データは数理的なものですから、身近な課題やビジネス上の課題を数  
理的な課題にまで落とし込めないと、データの利活用にまで行かないのです。そこがなか  
なかできていないのではないかと。

それができないところで、すぐデータを使う方やソリューションの話になってしまうと、  
とんちんかん話になってしまってもうまいかないことが多い気がしています。そう  
いう意味だと、人材育成でここで例えばイベントでアイデアソン・ハッカソンなどがあり  
ますけれども、最近よく見られるイベントが、データサイエンスブートキャンプみたいな  
ものがあります。そういう名前のイベントを、コンサルさんなども随分やられていると思  
うのですけれども、そういうものが課題を分析したり、僕らの用語では課題を磨くなどと  
よく言うのですけれども、そういうところに着目した、新しいイベントも考えてもいいか  
と。人材育成などその辺をやってもいいのかと思いました。

もう一個は、南雲さんのように、あそこまでやるとすごいと思っております、とても  
参考になるのですが、さらに言うならば、僕は若い人にもっと訴求する形。だから、僕ら  
も大学にいとAIという分野は若い人に随分訴求しているのですけれども、データという  
分野にどこまで若い人が魅力を感じているか。だから、こういうもの出し方も、南雲さ  
んがやっているやり方もあり、別途例えばユーチューバーが東京都にいてもいいのではな  
いか、データプラットフォームのユーチューバーチャンネルがあってもいいのではないか。  
あと、組織が来年度以降に立ち上がったときに、例えば学生のインターンをたくさん採る  
など少しそういうことをやってはどうでしょうか。ITの将来はどれだけ若い人がコミット  
するかだと思のです。だから、若い人がコミットできるような仕組みをこの協議会とい  
うか、来年度に設立するところの中にうまく組み込めるといいのかと思いました。

取りあえず以上です。

【事務局】ありがとうございます。

まさに1点目にいただきました社会課題みたいなもの、漠然とした課題をしっかりと数理的課題まで落とし込むというところで、それに際して、例えばデータサイエンティストみたいな人材が必要だという文脈があったかと思うのですが、この辺り、まさに自治体さんが進めていく上でもよくある課題かと思っていまして、庄司委員に関しましては自治体さんの最新動向等にも詳しいかと存じておりますが、庄司委員、この点に関しまして、よろしければ御意見をいただいてもよろしいでしょうか。

【庄司委員】自治体の話が飛んでくるとは思っていなかった。ごめんなさい。

【事務局】違う観点でも結構でございます。失礼しました。

【庄司委員】ありがとうございます。

自治体は今まさに大きく国も動き出していますし、この1年ちょっとのコロナ対応の中で、いかげんそろそろいろいろなことをやらなければという機運は高まっていると思うのです。はんこの見直しみたいなこともそうですし、テレワーク、こういった遠隔会議などもそうですけれども、ついにやろうとなっていると思うのですが、細かいところでどうすればいいのという情報交換などはなかなか課題もあるのかと思っています。国やメディアが発信する情報だけでは現場での行動にはなかなか移せないところもあるので、そこでコミュニティです。こういうときにどうやったのとか、そういう横に細かいことを共有できるような場づくり、メディアづくりが一つは大事ではないかと思います。そのニーズはすごく強く感じています。

私もコミュニティ形成という意味ではオープンデータに関して、オープンデータという動きが広がってきたよというのを2008年ぐらいのアメリカのオバマ政権ができた頃からのいろいろ持ち込んでコミュニティづくりをやってきたのですけれども、勉強会をやるといういろいろな方が来てくださる。想定していたところだけではなくて、関心を持って聞きつけて意外な方が来てくださったりするというのが勉強会を自由参加でやることの意義だと思うのです。今だとスマートシティ・インスティテュートさんみたいに、あの回数は本当にすごいのですけれども、ああいった取組を地道に定常的に続けていくのも一つ大事だと思います。

それから、勉強会はその場はそれでいいのですけれども、もちろん参加できない方などもあるし、どんどんいろいろな小さいコミュニティが出ていたり、小さい動きがあちこちに出てくると思うので、それをまた全体に紹介していく。タコつぼ専門化がどんどん進んでいかないようにというか、情報を共有する取組、メディアみたいなものが必要なのだらうと思います。スマートシティ・インスティテュートさんのメルマガがあったと思うのですが、ああいったものはみんなの情報共有や一緒にやっているねという意識づくりをし

ていく上では大事かと思いました。

あと、南雲さんのパワーはすご過ぎるのですけれども、普通は事務局はあんなにパワフルにやり続けるのは大変だと思うのです。こういうネットワークをつくる時も真ん中にいる人が大活躍すると動くというのは間違いないのですが、真ん中の人だけに依存し過ぎてしまうと、その人が倒れたら何もなくなってしまうとか、あるいはその方に遠慮して動きにくくなるなどがあります。そこで有効なのはクラスター状にいろいろなグループがぼこぼこいること、ハブになる人もいるのですけれども、ハブが1つではなくて幾つかハブがあったりして、クラスター間のつながりがいろいろなところで起きるようにしていくことです。混雑ワーキングと全然違うことをやっているワーキングがたまにはお話しする場ができて、ビッグデータに関する勉強会を一緒にやりましょうとか、別々のグループを媒介するようなネットワーク構造クラスターとハブになる人の役割が、オンラインのコミュニティがうまくいく上で結構大事です。そういうところを意識していくといいのではないかと思います。

最後、越塚先生がおっしゃっていたインターンは、大学の教員としてはぜひお願いしたいというのがあります。学生が教室で勉強しているようなきれいなデータを使った分析や成功事例の話だけでは本当の社会を知ることにならないと思うので、あれこれ試行錯誤する中からみんなで一緒に考えていくとか、実際にどういうところで壁にぶつかるのかというところも含めて、いい体験ができる場がここだとつくれるのではないかと思います。それがまた学びとして教材になって勉強会にフィードバックしていくとか、そういう動きもできるといいように思います。

以上です。

**【事務局】** 庄司委員、ありがとうございます。

庄司委員にいただきましたところで、まさにワーキンググループ間の連結みたいなところと、例えば南雲委員によろしければお伺いできればと思ったのが、SCIの活動は南雲さんがすごくアイコンとしてど真ん中におられて、その存在はありつつ、それ以外のレバレッジのかけ方というか、メディアの使い方なども非常にうまいのかと思っているのですが、そういった南雲委員個人の活動にいかに関係を付けていくかみたいところで御参考になる御意見がいただければと思うのですが、いかがでしょうか。

**【南雲委員】** ありがとうございます。

あまりレバレッジをかけるという感じでもないのですけれども、僕が好きになってしまって趣味みたいになっているところがあるのは否定できないのです。けれども、例えばウェビナーで言うと、スタートアップの日は実は僕はやっていないのです。スタートアップをずっとやってきた社内のほうの者でそれに情熱を注いでいる人がいるので、彼女にやってもらっているのです。

海外のネットワークは、僕の知り合いが多いというのは多いのですが、そこからいろいろな形にしていくというところはまた別の人がやっているのです。それはもともと出身母体の銀行で国際部門をずっとやっていた人の得意技なので、そこはやってもらっている。

ウェビナーももう少し形にしようかというところ、そういうことをやっている人がいるので、オンラインに強い人がいたり、例えば映像の編集などは当然僕にはできないわけです。それはまた別に得意な人がいてやっているのです。表面には僕が出ている感じで見られがちなのですが、実はそれぞれ自分の好きなことで得意なことを持っている人たちがモザイクのように固まってやっているのが実態で、彼らが止まってしまうと逆に僕も止まってしまう、そういう感じになっています。

**【事務局】** そういう意味では、このTDPFに関してもいろいろワーキングを立ち上げていく中で、全て事務局だけで主導するのではなく、それぞれのワーキングの中で実際に事業をやられている方などでキーとなるような方などをつくって、そういう方たちをハブにみたいなことは考えていったほうがいいのかと、何となくいただきましたコメントで思いました。ありがとうございます。

最初、越塚委員からいただきまして、また、庄司委員からもいただきましたが、若い人、学生という意見もありましたけれども、学生だけに限らず若い人をいかに巻き込んでいくかみたいところで、関連して、総じてスタートアップ業界は年齢がお若い方も多いので、よろしければ佐藤委員、御意見をいただいてもよろしいでしょうか。

**【佐藤委員】** ありがとうございます。

若い方たちにまず今日みたいな取組があるよということを知ってもらうことがすごく大事だと思っています。今、学生のインターンの話が出ましたけれども、ベンチャーなどにとっても優秀なインターンなどは欲しいのですが、AIエンジニアは今一番欲しいところだと思うのです。そのようなエンジニアにとってどういった企業が非常に魅力的なのかというと、莫大なデータを持っているベンチャー企業や会社になると思うのです。そうすると、インターネットの検索などをやっている会社であったり、eコマースのプラットフォームであったりとか、そのような莫大にデータが集まってくるところだと腕の振るいがいいがあるというところで、皆さんそういったところに就職をされていくという感じだと思います。

そう考えると、東京都のこういったオープンデータというのは非常に彼らにとっても魅力的なところだと思いますので、まず、このような魅力的なデータがオープンデータとして使えるのだよというところを大学のそのような志望をしている子たちに伝えるところを、いろいろと省庁などと連携するのか、大学機関と連携するのか分からないのですが、そういったところの告知が非常に重要かと思っています。

一方で、ハッカソンみたいなものやってもいいと思うのですけれども、実際にそこでつくったものが一般の人たちに使われないと全く意味がないと思いますので、そういったところのメディアへの拡散、今、インターネットメディアはたくさんあります。検索エンジンだけではなくて、某ニュース配信サイトのようなところもたくさんありますので、そういったところでうまくつくったデータを使ってもらうところまで含めて拡散して、メディアも巻き込んでいくことも非常に大事かと思えます。

ベンチャー企業にとってデータをうまく活用してビジネスにしていくところを、ボランティアではないので、学生さんとはまた違う視点で行くと、ビジネスにつながる魅力的な価値があるデータであるというところを認識してもらわないと、なかなかベンチャー企業だと小資本の中で動いておりますので、巻き込みか難しいのかと思ったりもしています。そういった意味で、データをうまく活用して世の中を変えていくところに、ビジネスというお金の匂いがすることも非常に大事な要素なのかと聞いていて思いました。

こういった取組はすごくいい取組だと思いますので、今日のニュースを含めていろいろなニュースメディアに拡散していったり、テレビで取り上げてもらえるようになってくると、世の中全てが変わっていくのかと感じています。

以上です。

**【事務局】** 佐藤委員、ありがとうございます。

今まさに皆様からコミュニティをいかにつくっていくか、それをどう発信していくか、あとはそれを利活用においてビジネス化していく重要性みたいなところをいただきましたが、そういった利活用を進めていく上で違う見方をしたときに、まさに個人情報保護法の動向といった法令等の最新動向を踏まえたときに、この辺りのテーマに関してもしっかり見ておく必要があるのではないかという観点で、よろしければ日置委員からもコメントをいただければと思うのですが、いかがでしょうか。

**【日置委員】** ありがとうございます。

今年はインタラクティブなやり取りがされるのだと思いながら。去年とは違うなど。

**【事務局】** 急に振ってしまいまして、すみません。

**【日置委員】** 私は御案内いただきましたとおり、政策面と法律面というものをプラクティスとしては見ているということがありますので、この今の流れ、庄司委員からも機運が高まっていると。行政DX、デジタルということなのですけれども、これまでだと法令があるからとか、既存のシステムでこういうものがあるからとか、デジタル化が急務ですとか、そういったところから、事業の実現に至るまで課題間でどんどん錯綜しながら取組がスタックするみたいなことにつながっているかと思うのですが、最近の取組としては国民起点



のサービス、社会課題の解決など、大きな目標があって、今回であれば都民のQOLの向上などと言われていたと思うのですけれども、事業の大目標があって、どういうことをしていくかとブレークダウンして対応していく。そうやって、例えばDPFにおいてはシステム上、運用ルール上、当然に法令や政策課題などを解決して仕様をつくり込む必要があるのだと考えております。

御案内いただいた法令と政策ですが、例えばまずは東京都側が保有するデータ、あるいは東京都が関連する局が持っているようなデータを活用するというのが今はファーストステップとして挙げられていると思うのですけれども、先日、指定が行われたベース・レジストリの件ですとか、あるいは令和3年、今年改正された個人情報保護法がホット 이슈だということになるかと思えます。

法改正のほうは、公的部門と民間部門の3法統合というところと、地方公共団体のほうは個人情報保護法制について全国的な共通ルールを策定しますよということと、条例の制定は必要最小限の独自の保護措置のみ許容されることになっています。例えばこの独自というところは条例要配慮個人情報ぐらいしかほぼないです。あとは手数料などです。審議会についても、これまでと役割が全然違いますと。これまでは個別事案について対応するとか、そういう形になっていたのですけれども、今後は地方自治体の施策についての調査ですとか、検討ですとか、広いルールであるとか、そういったところを見ていくのが審議会の役割になりますとされています。

あと、気にしておかなければいけないのは、地方公共団体の関連では、公立病院や公立の大学等が地方独立行政法人法の21条1号、2号、3号のうちの病院事業、ここに関するものは個人情報取扱事業者、民間と同じルールが基本的には適用されますとなっている。このDPFに参加するような国立の研究機関や国立大学、病院、そういったところも同じような民間並みのルールで例外がある形になっています。こういったところは今回のDPFを考えるとときに念頭に置かざるを得ないところかと思えます。

この法改正の影響だけでも非常に大きいので、どうしていくのかというのは課題なのですが、それも踏まえた上で対応をどうするのかを検討していくというのも、今回の協議会の論点としては認識しておかなければいけないかと思えます。ルールのつくり込みの際に変わっていく個人情報保護法制を見ざるを得ないというところかと思えます。

以上です。

**【事務局】** 日置委員、ありがとうございます。

まさにいただいたような内容に関しましては、今年度もポリシー案の改訂みたいところで検討を進めてまいりますので、そちらでも詳細にぜひ議論をさせていただければと思っています。

今、まさにポリシーに関するようなところのコメントもいただきましたが、2つ目の関連事業についての御意見というところで、越塚委員、関連事業に関しても少し御意見をい

ただけるかと思っておるのですが、よろしく願いいたします。

【越塚委員】先ほどはコミュニティの裾野みたいな話をしましたけれども、関連事業のところで少しとんがった話もさせていただくと、ここにあるようなデータの連携の基盤をどうしていくかがあって、少し先ほどもお話がありましたが、冒頭にあった一番重要なところは、基盤がしっかりやらなければいけないのはトラストだと思います。そうすると、トラストのベースはデータなどに対するIdentifier (ID)をどうするか、PKIをどうするか、また、そのデータのIDに対して、そのデータの由来がどうなって、信頼できるデータなのかという情報を結びつけ、データの信頼性を担保できる仕組みをこのプラットフォームがきちんと持っていることが信頼たる基盤になるところの最も重要なところ。ほかにもいろいろな機能はあるのですけれども、そこが一番コアになってくる場所かと思えます。

ビジネスも考えると、今後データマーケットやデータ取引市場の機能も不可欠だと思いますので、その検討や中身をしっかりと持っていないと、ただの烏合の衆になってしまうので、そういう基盤はしっかりと整備することは重要だと思います。それは我々のところのDSA、DATA-EXのところでもやっている内容ですので、ぜひ連携させていただきたいと思っているのが1点目です。

もう一点は、今回は佐藤さんのような方がいらっしゃると思うのが、データに関して次に重要なのがファイナンスだと僕は思っていて、データのための金をどこからどうしてくるのだとか、データそのものが財源化できるのではないか。海外だとデータを使った債券や証券化の議論があるのです。僕はあまり詳しくないのですが、それこそ私どものような東京大学も最近ソーシャルボンドの債券で資金調達をして国立大学運営をするように、今後データの取組の資金調達の方法は、もっと今の金融の仕組みを使ってやるべきだと思います。

少し海外の例を見ていると、例えばデータを証券化するのです。そのデータでコストが節約できると、コストが節約できた分のお金を配当する。そういう証券にするとか、そういう金融の仕組み、海外などではそういう検討が始まっています。先ほどのデータ取引市場はそんな話ですけれども、せっかく今回金融系の委員もいらっしゃるのです、少し先を見た話ですが、東京都だとそういうものを一番先進的にやるのにふさわしい場所。国全体になってしまうと今度は薄まってしまうので、まさにそういうものを検討するには一番いいところですので、関連事業ではないですけれども、少しそういったことも検討していただけると、今年、来年は良いと思います。

以上です。

【事務局】越塚委員、ありがとうございます。

特に2点目のファイナンスの件は、まさに国のほうでもいろいろな既存の様々なソーシャルファイナンス的なものをこういったまちづくりやスマートシティにどう適用させてい

くかみたいな議論がよくあるかと思っていますので、その辺り、しっかりウオッチしながら東京都としての独自の議論もしていきたいと思っています。

意見交換、素晴らしい意見をいただきまして、ずっとしていきたいのですが、時間が押してしまっていて、よろしければ、関連事業に関しましてもうお一方ぐらい最後にコメントをいただくとありがたいのですが、いかがでしょうか。

日置委員、よろしくお願いいたします。

**【日置委員】** 委員の日置でございます。

昨年、ポリシー策定委員会から準備会のほうに上程するような形で、ニーズがどこにあるのかが曖昧だったこともあって、厳しめのルールの提案も中にはありました。そこが私は非常に気になっていまして、社会にマッチした形で検討を進めていったほうがいいだろうということと、もしそういったところのニーズ出しが難しいのであったら、一つ課題設定させていただきたいということで、コメントをさせていただきたいと思います。

例えばデータ収集などもそうなのですが、トラストと併せて社会的受容性の話は結構去年にさせていただいていて、その過程で法適用がないIPアドレスのみであったらとか、あとは匿名加工情報にすればいいのではないとか、そういうところに拘泥しない、何ならば使っているのか、どういうデータの取得の仕方ならばいいのかと。そういう細かなところもワーキンググループやアイデアソンでお話ししていただいたほうが、後々ポリシーを策定するときにも、あるいはシステム基盤をつくるときにも役に立つ情報が入ってくるのかと思いますので、そここのところは御検討いただければと思います。

**【事務局】** ありがとうございます。

まさに守るためのポリシーもそうなのですが、より利活用を進めるためにどういった議論が必要かというところを、しっかりポリシー案の検討とケーススタディみたいなところと連携したり、事業間の連携でそういったニーズを出していくことが重要かと理解しました。ありがとうございます。

一旦、このパートの意見交換はお時間の関係でここまでとさせていただきますが、よろしければここまでの意見交換、宮坂副知事、御意見をいただければと思うのですが、いかがでしょうか。

**【宮坂副知事】** 特に大丈夫です。興味深く聞いております。ありがとうございます。

## 8 フォーカス分野の選定

**【事務局】** ありがとうございます。

それでは、一度アジェンダに戻らせていただきまして、次のアジェンダに行かせていただきます。

続きまして、フォーカス分野の選定とワーキンググループ活動の検討状況というところで、具体的な検討の分野みたいなところを東京都の高橋部長より御説明させていただきます。よろしくお願いいたします。

【高橋部長】事務局、高橋葉夏でございます。

資料の51ページを御覧ください。フォーカスすべき分野の選定は、①として、東京都として重点的に取り組む必要があること。②として、他のデータプラットフォームを国や民間企業が行っております、そちらとのすみ分けが明確であること。③としまして、基礎自治体単位ではなく広域自治体である東京都が取り組む必要性があること。④としまして、行政の介入なくしては埋まらない需給のギャップが相対的に大きいこと。そして⑤、今も議論がありましたが、個人情報を含まないデータで十分な価値提供ができること。この5つの観点を重視して進めていきたいと考えております。

52ページを御覧ください。現在、ワーキング活動を通じて検討を行っていくテーマとして、既存の混雑ワーキンググループに加えまして、防災データ、そして、データ収集検討、両方ともまだ仮称でございますが、2つのワーキンググループの新設を検討しております。

53ページを御覧ください。まず混雑ワーキンググループの今年度の取組内容でございますが、混雑情報の利用価値向上、そして、混雑情報の流通促進、こちらを柱に進めてまいります。今後の予定としましては、混雑情報と他のデータの掛け合わせにつきまして、今年度6社と協定を締結しまして、サブワーキンググループを立ち上げ、それぞれパートナー企業の募集の準備を進めているところでございます。第1回混雑ワーキンググループの開催内容につきましては、5月に開催しておりますので、そちらのほう、ホームページを御覧ください。

54ページを御覧ください。防災データワーキンググループ、こちらは仮称でございますが、防災関連データの流通・活用につきまして、官民連携などの拡大の余地があること、また、被害実績などのデータの項目が異なりまして、位置情報が把握できなかつたりするものもあることから、昨年の実証事業を通じまして、その辺、私どもは把握しております。今年度の取組の方向性としてしましては、行政が保有する防災関連データの提供を通じまして、旗振り役として自治体がまずデータ流通を促すこと、そして、緯度経度情報など防災サービスに必要な情報を洗い出して、それらの整備・連携方法を検討していく、そういうことを想定しているところでございます。

55ページを御覧ください。防災関連データの利活用に向けまして、ニーズや課題出し、対応策の検討、そして、TDPFの役割整理を検討課題としたワーキンググループを設立しまして、こちらには自治体や防災システム事業者、防災関連機関、物流事業者や小売事業者など、皆様に御参加いただくことを想定しているところでございます。

もう一つのデータ収集検討ワーキンググループ、こちらはまだ仮称でございますが、施設のバリアフリーなども含めました施設のデータの流通におきまして、まだ提供条件等が

定められていないことから、民間企業としてもなかなかデータが出しづらいついとか、データの信頼性を確保するためにはいつどの程度更新していくかなどのルールを整備する必要があることなど、その辺を昨年度の実証事業で認識しておりますところから、取組の方向としまして、提供したデータの利用者の限定や利用条件の明確化、そういうことによる企業側のリスクの低減、データの信頼性を示す指標や更新ルールなどの検討を想定しているところでございます。

57ページを御覧ください。これらの方向性を踏まえまして、まず、特定エリアにおける施設情報、例えばここの絵に描いてありますけれども、トイレの情報なども含めまして、官民横断で収集することを取り組みまして、民間企業にデータ提供を依頼する際の条件を整理し、ニーズを踏まえた更新ルール等を検討していくワーキンググループを設置しまして、こちらにも自治体やエリアマネジメント組織、宿泊事業者、地図サービス事業者、ポータルサイト事業者など、皆様に御参画いただくことを想定しております。

58ページを御覧ください。今年度の全体スケジュールです。年4回の推進会議に加えまして、それぞれのワーキンググループも4回程度開催を予定しております。新設の2つのワーキンググループにつきましては、詳細が固まり次第、メンバーを募集させていただきます。関係の皆様、ぜひとも御参画いただくようお願い申し上げます。

アイデアソン、オンラインセミナー等のイベントも、ワーキンググループや協議会事業の活動状況と併せて、効果的なタイミングで計画してまいりたいと思っています。関連事業につきましては、この推進会議などの場で随時進捗を報告させていただく予定でございます。

以上でございます。

## 9 意見交換②

【事務局】高橋部長、ありがとうございます。

それでは、今、御説明さしあげましたフォーカス分野に関しまして、次の意見交換に入っていきたいと思っております。

委員の皆様意見交換をいただく前に、再度「Mentimeter」を使って参加者の皆様にも御意見をいただきたいと思っております。先ほど、新規ワーキンググループ候補の御説明等もさせていただきましたが、参加者の皆様がどんなワーキングに興味をいただいているかというところを、ぜひ御意見をお聞かせいただければと思っております。

前回の質問で、そのままブラウザが残っていらっしゃる方はアップデートされていると思いますし、もし改めてという方はこちらのURLとQRコードからよろしくお願ひいたします。ありがとうございます。早速御回答をいただいております。

では、皆様の御回答をお待ちしております間に、昨年度、防災領域をテーマにデータ利活用実証事業に取り組んでいただきましたNEC様から、今後のワーキンググループ活動に期待することなど、少し宣伝も含めてお話しいただければと思っております。

NEC足立様、コメントをいただいてもよろしいでしょうか。

【足立様】御紹介いただきました、NECの足立です。よろしくお願いいたします。

前年度、防災情報分野の実証事業を担当させていただきました。前年度の実証では、官と民のデータを使用し、新たな防災情報の提供を検討させていただきました。御参加いただきました自治体様や民間企業様からは一定の評価をいただきました。御説明にもありましたが、実証を通して防災分野にニーズがあることと、運用上の取決めが必要であることが見えてきております。

今年度は社会実装に向けて防災分野の情報と利活用のマッチングのさらなる拡大を模索するとともに、フェーズフリーで使用する場合を見据えると、平時は駄目けれども有事は共有していい情報などもあり、委員の方々からもありましたが、利活用の範囲や状況に合わせた運用の規則、ガイドラインの作成に向けた検討を今年度進めることができればよいと思います。この辺りで御支援ができればよいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

以上です。

【事務局】足立様、ありがとうございます。

参加者の皆様、回答もありがとうございます。その他で選択肢がなかった皆様に関しましては、ぜひアンケートにも具体的にこれら3つ以外のこんなワーキングを東京都として設定してほしいみたいなことがあればそちらもいただきたいですし、今年から新設予定のデータ収集検討ワーキンググループが人気ということで、皆様からどしどし御応募がいただけるのかと期待しております。一方で、混雑ワーキンググループの事務局としては頑張らないといけないというところで、ぜひ今後もワーキンググループを募集してまいりますので、積極的な御参加をよろしくお願いいたします。

それでは、早速このテーマに関しまして、委員の皆様との意見交換に進めさせていただきたいと思っております。まさに書いておりますTDPFがフォーカスすべき分野に関しまして、助言であったり、もしくはそれ以外にもこういう分野に注力することもありではないかということも含めて御意見をいただければと思っております。

よろしければ、先頭バッターとして庄司委員、コメントをいただいてもよろしいでしょうか。

【庄司委員】ありがとうございます。

私個人的には混雑というテーマは好きでして、応援しています。

【事務局】ありがとうございます。

【庄司委員】フォーカスすべき分野についてということでお話しいただいた中では、混雑もそうですし、もちろん防災もそうですが、特にデータ収集検討のほう面白いかなと思います。データを集めるだけではなくてどこかで使われるようにどんどん出していく、使っていただくということが、特にここは大事かなと思います。

その場合に、私たちはどうしても分かりやすいポータルサイトや地図など、消費者が直接触れるようなメディアを割と想定しがちなのですけれども、実はそういうビッグデータみたいなものは、それを集めてきてまた加工して出す卸事業者というか加工屋さんというか、B to Bのプラットフォームをつくる専門家みたいな企業とうまく出会えるといいなというのが一つです。

それから、これは全てに言えることなのですが、創発的にいろいろな人が集まってマッチングすると、思わぬアイデアが生まれました、組合せが生まれましたという環境をつくりつつ、それに加えて、各ワーキンググループなどで目玉となるプロジェクトやみんなを取り組む目標みたいなものがあると、すごく一体感が出るというか、そういうやりやすさが出るのではないかなと思います。

それから先ほどの越塚先生のソーシャルインパクトボンドみたいなお話には、触発されました。例えば混雑対策がこのデータによってうまくできましたとか、防災の何かが効率化しましたということができたならば、東京都がもともと用意していた予算よりも少なく目的が実現できたので成果報酬がTDPFか参加企業に入るみたいな、そういうインセンティブの仕組みなどもつくれたら面白いのではないかなと思いました。

こんな感じでよろしいでしょうか。以上です。

【事務局】庄司委員、ありがとうございます。

2つ目のPFS的な成果報酬の仕組みみたいなところを取り入れていくというのは面白いかと。そういったものはワーキング横断で検討していったりすることもできるかと理解をしました。ありがとうございます。

1点目にいただきました、まさにデータを集めた後にどう使ってもらおうかというときに、単純に直接データ整備をしたTDPFとユーザーみたいなところを直接つなぐというか、間にB to Bサービスの事業者を挟んでしっかり分析をして加工してもらってみたいなことも必要ではないかみたいな御意見をいただいたのかと理解をしております。まさにエンドのサービスを提供していくプレーヤーとして、スタートアップみたいなところは非常に大事なプレーヤー層かと思っております、そういったスタートアップの方々が、単純にローデータで汚いデータがあるだけでは何も使えないよみたいな話はよくある話かと思っております、そういった観点で、特にスタートアップの皆さんがこういった行政が整備していくデータを活用していく上でこういった課題があるのではないかなど、そういった観点で、もしよろしければ佐藤委員、コメントをいただいてもよろしいでしょうか。

【佐藤委員】ありがとうございます。佐藤です。

新たなデータ活用のところで行くと、私がこの間聞いたもので面白い事例は、検討ももちろん昨年などもされた可能性もあるのですけれども、交通情報や事故データみたいなものをうまくデータ化して、それを活用することによって、この道は事故がよく起きているよみたいなことがあらかじめ分かると、ナビゲーションの中にそういうことを入れて、ここは非常に事故がよく起きているところだから注意していきましょうみたいな、最初に事故が起きる前に注意がけをすることがリアルタイムに車の中に対してすることができる。そうすると、車両の保険の支払いなどが大分減るようなことにつながるので、結果的に先ほど言った証券化みたいな話だと、事故が減った分保険を払わなくていいので、その辺の負担は下げられるみたいな話などができるかと。

私は子供の母親でありますので、なかなか個人情報の問題などでオープン化されないですけれども、同じように事故だけではなくて犯罪の場所みたいなところは、怖くてあまり見たくはないですが、そういう意味ではそういったものがあると防げる犯罪もあるのかと思います。

医療データですと、コロナなどでかなりリアルタイムに把握はできていますけれども、その他もろもろ、まだまだ活用できる、東京都だからチャレンジングな収集ができるみたいなところはあり得るのかと。

一方で、プライバシーのところで行くと、データの活用でもプライバシーを除去した形で見える化する事例も、広島県などでも美術館などの混雑データを個人情報が分からない形でリアルタイムに見える化するようなベンチャー企業の取組もありますので、そういったところをうまく事例としてやられると面白いのかなどと思って聞いておりました。

以上になります。

【事務局】ありがとうございます。

まさに最後にいただきましたプライバシーをみたいところに関しまして、よろしければ、今回設定している混雑や防災、そういった分野においてというところに関しての言及でも結構ですし、その他、全般の領域でも結構ですが、日置委員、コメントをいただいてもよろしいでしょうか。

【日置委員】日置でございます。

防災でも、混雑でもデータ収集でも関係してくるかと思うのですけれども、データについて、よくビジネス上でも御相談いただいて、なかなか難しい問題だなというので課題になることが2つぐらいあると思っています。情報の収集の適正さというところと、提供時の法令遵守あるいはプライバシーリスクへの配慮というところと、皆さんがお困りになっているところがあるのかと思います。ですから、その辺りの課題共有、それを仕組み上、例えば同意の取り方でこうしましょうというので解決できるのか、それともデータを加工



することで解決できるのか。ユースケースとの関係にもつながりますけれども、そういう課題を皆さんで共有していただいて、どういった形でルールと基盤をつくっていくのか、あるいはデータの品質、トラストというところを担保していくのか、また2次利用のしやすさというところを御検討いただくのがよろしいかと。

データ収集にフォーカスすると、例えば画像をお考えいただきたいのですが、それは公共空間、道路であるとか、もう少し閉鎖的なところで駅構内であるとか、あるいは完全な私有地の中か、それによってプライバシーへの配慮は程度も変わってくる場所があります。それが映り込みなのか、それとも完全に見えている形なのか、画像としてただ見ているだけなのか、それともトラッキングできる形に加工するのか。そして、使い方が防犯というかなり限定的なものなのか、それとも商用利用するのか。それによって取得時に提供すべき情報も違いますし、かつ映り込みであったら情報提供自体が難しいこともありますので、どういった形で情報を収集するためのプラクティスを構成していくのかというところは御検討いただいたほうがよいのかと思います。

最後に1点だけ、その他というところになるのですが、基本的に今のところは行政データ、個人情報を含まない形で対応していきたいというところからスタートするという話なのですが、今後スマートシティなどを考えていくときに、信頼性の観点もありますし、法令の観点もありますし、どうしてもDPF自体と個人の方とのコミュニケーションが発生しないとデータが使いにくいということはあると思います。ですから、データの収集のときにも併せて御検討いただいたほうがよいと思うのですが、同意の取り方、取れるような形での参加の仕方、仕組みづくりも併せて御検討いただいたほうがよいのかと思います。

冗長になりましたが、以上です。

**【事務局】** 日置委員、ありがとうございます。

意見交換の途中ではあるのですが、宮坂副知事がこの後所用があられますので、宮坂副知事、よろしければこのタイミングで意見交換に関しまして一言コメントをいただければありがたいです。

**【宮坂副知事】** 東京データプラットフォームは官と民なので、民の方のデータもというのがあるのですが、ファーストパーティとして、我々東京都が行政としてこのプラットフォームにどんなデータを出していくべきなのだろうかというのはぜひ考えていきたいと思っています。

そのような中で、ぜひ皆さんと今後ディスカッションしてみたいのが、自分としては、今まではこういうものは出したほうがいいねと言われたものを出すということが多かったと思うのですが、原則、デフォルトは公開とし、公開しないものは理由を言うこととする。もちろんデフォルトが駄目なもの、個人情報などもあると思うのですが、そうでないものについては都民の税金でつくらせてもらっているシステムですから、そこ

から生まれるデータについては、全員がまず使えるようにしましょうというのが原則論ではないか、哲学的な議論なのですけれども、思っています。そういうものが打ち立てられると、我々もデータを出すときに、何を出そうかという話を中でしたときに、基本は出す、むしろ何を出してはいけないのかの議論をしっかりとやるということに変わってくると思うので、まず公開原則がつかれるかどうかは割と大きな一歩になるかと思っています。

そんな中で、ユースケースの中でぜひ議論していただきたいのは、防災の辺りが気になっていて、行政ならではの視点で言うと、民間の場合は決算などが毎年ありますので、結果が出るまでは長いと思うのですけれども、むしろ防災は、地震、富士山の噴火、気候変動による水害など、そういった10年に1回、30年に1回の確率で起こるものに備えないといけない。これはさすがに民間の企業の人にやってというのは土台無理なことになりますので、こういったものは我々が行政として集中的にやらないと、社会の役割分担としてここは行政が頑張らないといけないところではないかと思っています。

それから、誰一人取り残さないと最近の言葉で言われますけれども、体にハンデのある方々は400万人ぐらい日本にいらっしゃると思っています。すごい数です。こういう人たちが何ら困ることなく暮らすことができるまちづくりのためにどんなデータをつくらないといけないかという点は意外と民間ではやりづらい部分なので、行政としてしっかりやって、それを民間で議論して利活用できるような環境をつくれるといいのかなと思っています。

もう一つは、データ整備事業のところにもクロスで関わってくると思うのですけれども、国のほうでもベース・レジストリの議論がすごくされてきていて、すばらしい取組だと思うのですが、そこが行政としてはすごくキーではないかと中にいて感じているところです。

例えば、最近、都でも都の施策として飲食店の方にステッカーを貼っていただいたり、亚克力板など対コロナ対策の支援に関しての補助金を出していたり、家賃など、いろいろな支援メニューを用意しているわけですけれども、お店のIDなどがなかったりするので、ですから、どのお店がどんな施策をやっているかなど、クロスで見たりすることがなかなかできないのですけれども、一方で、お店という意味でいうと民間にもたくさんのお店を扱っているスタートアップ、飲食店サービスがいっぱいあるわけですが、こういったものがデータを横につなぐことができないので、我々としてIDですね。店のIDや地点のID、個人のIDはマイナンバーで決まってきましたけれども、そういったIDを行政が徹底的に原則全部使うという辺りも、むしろTDPFの利用者としての行政というのですか。そういった視点の議論なども必要なかと思って、いろいろな議論を聞いておりました。ありがとうございます。

**【事務局】** 副知事、ありがとうございます。

副知事、このタイミングで所用により退室させていただきます。ありがとうございました。

【宮坂副知事】 皆さん、これからもよろしくお願いたします。失礼します。

(宮坂副知事退室)

【事務局】 それでは、委員の皆様の意見交換に戻りまして、今、まさに副知事からもテーマとして例えば防災であったり、バリアフリーであったり、そういったテーマがキーワードとして少し気になっていらっしゃるというお話などもいただきましたが、その辺りのコメントでも結構ですし、また、全く違う領域に関してでも結構ですが、よろしければ越塚委員、コメントをいただいてもよろしいでしょうか。

【越塚委員】 ありがとうございます。

今、副知事のおっしゃった防災におけるアクセシビリティというか、バリアフリー、最初はもちろん個人情報というか、パーソナルデータは今のところはタッチしないということと言うと、確かに行政が入るところは非常に重要で、かつ防災に関してはあらゆる分野が関係するので、縦割り、横割りとするとその弊害が非常に激しい分野なので、これは例えば医療と消防と警察と場合によっては自衛隊が出たり、国がいて地方自治体があって、民間企業の公共交通があり、あらゆる組織関係する。ここで連携できないことが防災の最大の課題なので、一つの自治体のレベルの中でもそれがしっかりできて、交通のデータも集まり、報道するテレビ局や新聞などにも情報として提供ができることなど、縦割り、横割りを排する連携がこの中でしっかり検討できて、それに向けてデータの利活用ができればすごく良いと思いました。

今回、ワーキンググループが3つあって、そのうち具体的にになっているのが混雑と防災、この2つも実は非常に関係するので、あまりワーキングが縦割りにならず、お互いに連携することが大事だし、混雑情報は防災にも使えれば、マーケティングにも使えたり、いろいろな分野にまたがるものなので、その辺、お題目の名前だけにこだわらず、いろいろ連携できるといいのと思いました。

3つ目がデータを集めるワーキンググループなのですが、僕はもしかしたらデータを使うというワーキンググループがあったほうが良いと思います。

それにも関係するのですが、僕は機械学習、AIのワーキンググループがあってもいいのと思うのです。AIをやっていると、本当に日本はデータがないのです。例えば農業をやっていると、これは東京はあまり関係ないかもしれないけれども、画像認識を機械学習でしようと思うと、トマトならばトマトの写真が1万枚欲しいとか、キュウリの写真が1万枚欲しいなどがあるのだけれども、ない。駐車場のデータもない。こんなデータもアメリカにはあるのはびっくりしたのだけれども、ダイレクトメールを出すとどれぐらい反応があるのか、そんなパブリックデータもあったり、AIをやっていると本当にこういうデータが欲しい、ああいうデータが欲しいとか、データがこんなに信頼できないものでは使えないとか、いろいろな要望が出てくる。東京は大学や学校がたくさんあって、AIをやって

いる人たちもたくさんいて、ベンチャーをやっている人もたくさんいるから、それを利用して、その人たちから出てきたニーズなどを酌み取りながらデータ整備をしていくなどは東京ならできると思うので、少しAIをお考えいただくといいと思いました。

以上です。

**【事務局】** 越塚委員、ありがとうございます。

今のAIみたいな話は、最初にいただきました分野をまたがるときの連携の仕方やワーキンググループをまたがっていくみたいなどころにおいても、そういうAIみたいなものを軸に取組を連携させていくみたいなこともできるのかと少し感じました。ありがとうございます。

よろしければ、南雲委員からもこのテーマに関してコメントをいただいてもよろしいでしょうか。

**【南雲委員】** ありがとうございます。

テーマを選ぶときに、既に上がっている防災、混雑というのは、行政が特にスタート地点にいるど真ん中だと思うのです。先ほどリバビリティー・インディケーターという話をしましたけれども、世界の主要都市を見ると、だいたい11から13項目ぐらいが幸せ、住みやすいまちを決める大きな要素は大体固まっているのです。ですから、全部データを集めるかどうかは別にして、俯瞰するという意味でどういうカテゴリーがあるのかということの世界の知見も御覧になっていただくといいかと思います。

例えば行政寄りのところで言うと、当然デジタルガバメントが入ってきますけれども、環境やエネルギーもどちらかというと行政側なのです。逆に民間のほうに行くと移動や金融が出てくるのですけれども、グラデーションがあるので、広域行政で行政から始まるやり方で行きたいところは12のカテゴリーのうちどこなのか。日本ならではの、東京ならではのところで、目的、パーパスに沿ってデータを集めようとするところからなのかと優先順位をつけていくアプローチがないと、なぜそこが選ばれたのかが何となくMECEになっていないという感じもしました。

以上です。

**【事務局】** ありがとうございます。

まさに南雲委員からも御紹介いただきました、ああいった指標なども参考にさせていただきながら、検討を深めていければと思います。ありがとうございます。

また、チャットでもコメントをいただきましてありがとうございます。エヌ・ティ・ティ・コム の 境 野 様 で よ り し い で す か 。 気 候 変 動 に 伴 う 風 水 害 の 拡 大 は 重 要 な 問 題 な の で 、 産 官 学 民 と 協 力 し て AI、IoT や デ ジ タ ル ツ ィ ン な ど を 活 用 す る こ と が 大 切 で す と い う こ と で 、 ありがとうございます。ぜひワーキンググループの中にも入っていただきまして、一緒に議論をさせていただければと思っておりますので、よろしく願いいたします。

皆様、貴重な意見交換をありがとうございました。いただきました意見も参考にさせていただきますまして、今後ワーキンググループの検討、有用なユースケースを目指していきたいと思っております。

時間の関係もございまして、以上が第1回協議会の次第内容でございます。後ほど、メールでアンケートもお送りいたしますので、本日、発言し切れなかった御意見等、また、御感想に関しましても、そちらにお送りいただくようお願いできればと思っております。

## 10 閉会の挨拶

【事務局】 それでは、本日の会議の最後に、デジタルサービス局の寺崎局長より閉会の御挨拶をいただきたいと思っております。

寺崎局長、よろしく願いいたします。

【寺崎局長】 デジタルサービス局長の寺崎でございます。

皆様、本日は第1回協議会に御参加をいただきまして、誠にありがとうございました。限られた時間の中で大変盛りだくさんな内容でございましたが、委員の皆様にはそれぞれの協議テーマについて、専門的な見地から御活発な御議論をいただきまして、誠にありがとうございました。

この東京データプラットフォームの構築に向けましては、先ほど、事務局より御紹介をさせていただきましたが、昨年度はまず最初のステップとして準備会の立ち上げや実証事業等を推進してまいりましたが、今年度はこれまでの検証結果などを踏まえまして、新たな事業展開などを通じてプラットフォームの構築に向け次のステップへと取組を進化させていきたいと考えております。

解決すべき多くの課題はございますけれども、本日のキックオフを皮切りに、今後皆様方からの御提言を基に民間事業者の方々、アカデミア、国及び区市町村の方々とともに、様々な分野、領域で連携を深めさせていただき、東京データプラットフォームの構築につなげてまいりたいと考えております。

今後引き続き協議会でしっかりと議論を重ね、コミュニティ形成の活性化等に取り組んでまいりますので、何とぞよろしくお願いを申し上げます。

本日は誠にありがとうございました。

【高橋部長】 寺崎局長、ありがとうございました。

それでは、これにて第1回の推進会議を終了させていただきます。

次回の第2回推進会議は7月から8月頃開催予定ですので、そちらもぜひ奮って御参加ください。

この後お送りしますアンケートもぜひ御回答いただけると幸いです。また、先ほど申し

上げましたSlackへの登録希望、こちらもアンケートに含まれておりますので、皆様の登録をお待ちしています。

それでは、以上をもちまして、第1回推進会議を終了させていただきます。

本日はお忙しいところ、ありがとうございました。